

大石地区

復興まちづくり協議会・地権者連絡会

議事要旨

■開催日時：令和2年2月29日（土）14時57分～16時00分

■開催場所：大石地域交流センター

■次第

1. 市長挨拶
2. これまでの経緯
3. 最新の土地利用計画について
4. 今後の工事スケジュール
5. 屋形遺跡について
6. 意見交換

意見交換（住民から市への質問と回答）

質問 1

西路線の工事をしているが、これは防潮堤なのか、道路なのか。

回答

道路です。

質問 2

14.5m以上の津波などが起きたら避難路から次にどこに避難すればよいのか。

回答

一段高くなっている場所がありますので、一度そちらに避難していただき、14.5m以上の津波などが万が一起きた場合は、そこから市道の方に上がっていただきたないと考えております。

質問 3

14.5m以上の津波が起きた場合、ここの住民の年齢層を考えたら上に上ること自体が難しい。上に上るのであれば、避難する人が歩く階段や道路を造ってほしい。

回答

復興事業ではここまで整備となっておりますので、どのような形の整備ができるか今後の課題として検討させていただきたいと考えております。

質問 4

西路線の下に2m幅の暗渠が入って水を流すというのだが、スクリーンはどのくらいの強度があるのか。また、流木より大きな岩が流れてきた場合、その石の流れる速度に対して、スクリーンというのはどのくらいまでもつのか。

回答

強度につきましては、鉄製のスクリーンになりますので、流木などある程度のものが流れてきても大丈夫なような設計になっております。万が一、大きな石が流れてきて壊れた場合でもかなり衝撃が弱まると思いますし、こちらの下流側にももう一つのスクリーンがございますので、その二段構えであれば、そのような石でも大丈夫であると考えております。

質問 5

もしも、スクリーンに石や流木が詰まってしまった場合、また土砂が溢れると思うが、その時はどうするのか。

回答

土砂が溢れることがないようにスクリーン2カ所ということで考えておりましたが、スクリーンの強度や土砂の関係を確認し、後日ご説明に伺います。

質問 6

スクリーン設備は何 m^3 ぐらいの木とか石とか抑える力あるのか。

回答

確認し、後日回答します。（現在確認中）

質問 7

ボックスカルバート $2\text{ m} \times 2\text{ m}$ というのは、流域面積とその流量などの計算の下で造るのだと思うが、スクリーンを造る場合にもそういった根拠があるのか。

回答

スクリーンを造るときには、流れてくる断面に対してスクリーンの大きさを計算しております。強度につきましては、ある程度流れてくる水の量もありますので、構造計算をした上で鉄筋の大きさなどを決めております。

質問 8

今回整備する西路線の下のボックスカルバートと、海側の既設のボックスカルバートの潮位の影響に伴う水による流量などは考慮しているのか。

回答

潮位の影響につきましては流量計算上、加味ができないものでしたので、今の流域の流量に対しての流量計算をしております。

質問 9

今回の台風第19号で被災している箇所を考えると、流量の計算ではもつたろうが、実際流れているのは土砂とか木なので、もう一度検討をしてもらいたい。

回答

ボックスカルパートが万が一詰まった場合の対策を検討します。

質問10

暗渠が詰まった場合に水がどのあたりまで流れてくるのかハザードマップ等作ってもらいたい。

回答

暗渠が詰まった場合の浸水範囲につきましては、図面に明記します。

(別紙図面をご参照願います。)

質問11

東路線の避難路のところに駐車場があるのか。

回答

駐車場があります。避難路は階段になりますので、万が一、車などで避難してきた方は、こちらに車を停めていただき、歩いて逃げていただくということで考えております。

質問12

駐車場の脇にある川のところのU字溝が見えているし碎石も全部流れているが把握しているのか。

回答

現地を確認します。

→現場を確認したところ、U字溝脇の洗堀、U字溝内への土砂流入を確認しましたので、工事により対応します。

質問13

東路線の工事完了となっているが、その道路以外のコンクリの部分なども市が借り上げたのか。

回答

既存の構造物に土を盛ることになるため、部分的に買収しておりますが、一部については、個人の用地が残っているところもあります。

質問14

今回、災害復旧工事をする37号線の海岸道路の隣に、大型土のうで仮応急しているところがあるが、あそこについてはどうするか。

回答

今回工事する箇所と併せて、工事を実施したいと考えております。

質問15

避難道として工事完了している以外の既存の道路についてだが、もともと傷んでいたものが、避難道の工事完了後にも大型の工事車両などの往来があり、これからも痛みが進むのではないかと思うので、状況を見て整備について検討をしてもらいたい。

回答

既存の道路の補修につきましては、管理している建設課と協議しながら、どのようなところを補修できるか、現地を確認したうえで実施したいと考えております。

閉　　会

【野田市長】

今日は、本当にいろいろとご意見を頂きまして、ありがとうございました。

まず、最後に町内会の会長さんからお話がありましたけれども、いろんな課題を提起していただきて要望はされているわけですけれども、なかなかすぐに対応しきれない部分が多くて、本当に申し訳なく思っております。

ただ、やっと大きなところは大体見通しが立ってきましたので、これからは地元の皆さんのが足元で本当に課題になっているところに目を向けながら進めたいなと思っておりまして、去年もそんな話をしておったのですが、そうしたらこの台風19号で、市内大体200カ所ぐらい、こういう土砂災害の箇所がございまして、被害は大きいところもあれば小さいところもあるのですけれども、結局またそこにお金と時間がかかるてしまいそうな見通しでございます。

実は、こうした災害査定というのは国の方が来て現場を見て、そしてこのぐらいのお金ならつけてあげますよという、いわゆる災害査定ということがまず最初

にあって、その後からどんな工事をするかということで具体的に始まっていくわけですが、やっと国の災害査定が終わったところでございまして、ですからこれからなのです、正直なところ。ですから、令和2年度が、冒頭でお話ししたとおり、東日本大震災の復興ということをまずやろうということでお話ししましたが、併せて台風のほうも、令和2年度に何とか進めたいと思っております。そのことによって、当初はもっと力入れていると思っていたのですが、結局業者さんもなかなか今度対応し切れない部分が出てくるのかなということで、当初思っていたよりも、まだちょっとずれるかもしれません、今改めてお話がありましたので、もう一回我々としてもよく検討して、可能な限り皆さんへの期待に応えられるように全力を尽くして取り組んでいきたいと思っておりますので、まずはその点よろしくお願いしたいと思います。

大変申し訳ないのですが、いつでも、地域会議でもいいですから、何回もしゃべってもらっていたかないと、職員もそのとおりですから、ぜひ遠慮なくどんどんお話ししていただければと思います。少しは前に進めるように令和2年度は進めたいと思います。

【住民G】

この関連ではございませんけれども、今市の職員さんたちが大石に入ってくるときに、結構そっちこっち山が切れていたなと感じたと思います。このとおり高齢化が進む中で後継者がおらず、後に残しても駄目だということで、伐採、間伐をしているわけです。二、三日前にも森林組合の総代会があり、副市長さんが出席されました。このときに農林課の課長さんも出席しており、伐採届を出してもなかなか許可が下りないという話をしました。去年の4月から法改正になって、このように厳しくなったということは承知しておりますが、もう少し自分の財産を簡単に処分できるようにしていただきたい。

それともう一つ、これも以前から要望していることですが、住民の皆さんの高齢化が進んでおり、どうしても山に登れないで、境などはどこでもいいからということで市の担当の方に手続きの委任をして帰っていきます。そのようにならないうちに、まだみんな健在で山を歩けるうちに、国土調査のほうも予算取ってもらって進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【野田市長】

今の木の伐採については、もう一回担当のほうと話ししながら、できるだけ早くできるようにしたいと思いますが、台風があって、結局土砂災害等も山の伐採が関係しているのではないかとか、あるいは伐採した後の後始末がどうなのだと

いろいろな議論があって、なかなか厳しくなっているというのも事実でございますが、皆さんの期待に沿るように全力を尽くしていきたいと思います。

あと国土調査のほうも急いでいますが、今橋野のほうをやっていて、次に唐丹ということで、一部唐丹も入っていますが、国の予算なものですから、お金と、それから一緒にやる業者、これがセットでないと、お金だけあってもやる人がいないということになりますので、その辺で思うようにいっていませんが、これはぜひ今お話をされたとおりですので、できれば前もって、ここが境だというのをどうなたか伝えていただければ、調査に入ったときにスムーズに、山に登らなくてもできるように、ちょっと我々としても考えていかなければならぬなと思っております。いずれやっと今全体で60%か、釜石全体の70%あたりまで来ていると思いますが、いずれ一刻も早くやれるようにしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

あとは、さっきおっしゃった、要は田の浜のようになるのではないかと。スクリーンで土砂が詰まつたらばどうするのだというのがちょっと今日は何件かあったと思いますので、これについては一応水量とかそういう状況を見ながら、計算の上で造っているわけでございますけれども、先ほどご指摘があったとおり、今まで計算どおり造って、それがそのとおりになったということはないし、必ずそれ以上の力で水が来ると、土砂が来ると、こういう現実なわけですので、その水量の力の考え方、これをもうちょっと上に持つていかないと駄目だなということが今回の台風19号の大きな反省点でございます。ですから、皆さんが大変心配しているということは重々承知しましたので、これも持ち帰りながら、もう一回よく検討したいと思いますし、ある程度の設計といいますか、工事の概要が決まりましたら、もう一回皆さんにお示しして、皆さんの納得がいくような形で工事ができるように、皆さんが知らない間に工事してしまうということにはならないようになりますので、よろしくお願いをしたいと思っております。

いずれ今回の台風で尾崎白浜が、結局こういうふうに水の流れが止まって、あそこも10mぐらいですか、浸水して、たしか漁協さんの建物の1階まで水が入ったということがございまして、田の浜だけでなく、釜石でも現実にそういうことで被災している場所もありますので、よくそこら辺も検討していかなければならぬと思っております。したがって、今の大石川のスクリーンについては、もう一回検討させていただいて、またこちらに出向いてちゃんと説明して、皆さんが納得できるようにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それから、今のハザードマップといいますか、そういったのは調整させていただければなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

あと、今検証委員会、冒頭でお話しした鵜住居の箱崎半島線で道路が陥没したということで、亡くなつたということもございますし、今の尾崎半島のこともございますし、いろんなところで、さっき言ったこれでいいのかと。今までこれでよかつたかもしれないけれども、これからはそれでは駄目だらうというところ、実は今大学の専門の先生方を呼んで検証をさせていただいているところでございます。ですから、今回の大石のほうも、その辺専門の先生方にも目を通してもらつて、ご意見を頂きながら次に進めたいなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

あとは、大石の道路については、これも何年も前から言われているところで、もうちょっと拡幅したいわけですけれども、それができないで今日まで来ておりますので、さっきの話ではないですけれども、もう一回側溝とか、そういった部分では何とかできる部分があると思いますので、これも持ち帰って考えさせていただければなと思っております。

さっき車で下まで下がつて、現場、ちょっと見させてもらいました。被災した地域はすごく道路がよくなつて、例えば室浜とか、桑ノ浜とか、箱崎とかああいうところ、前から見れば全然違う町並みになっているところでございまして、逆に被災していないところがそのまま残つてているという現状でございます。何とか皆さん的生活に支障ないように我々としても努力させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

いずれ今日皆さんから頂いた意見については、もう一回きちんと持ち帰つて精査しながら、またこちらのほうにお邪魔して、その結果について報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

本日は、本当に長時間にわたりましてご意見いただきました。誠にありがとうございます。